集市元豆六吊百至六三吊二百
紅糧價錢五吊四百文至五吊
集 共上車三十餘輛
邊 共來七十餘輛
元 吊九百至六吊八百

全 九 舞入 同五圓
全 大樽 同四圓
赤味噌 全 同九圓三十錢
札幌麥酒 四打入 同九圓八十錢
蜂印香竄葡萄酒 全 同二十二圓五十錢

全 清 同
葡萄 二打半 同八圓五十錢
梨 四打 同十一圓五十錢
桃 全 同九圓五十錢
人形ミルク 全 同十二圓五十錢

一 全 切込 全 全 十四圓五十錢
澤鶴 正味四斗四升入 十七圓
サッポロビール 九圓七十錢
（宅合名會社調査）

Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

料 一 長期連掲減價面議
發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 （電話二九番）

滿州日報

○報價目
每月收取八角代賣所及送達人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登一月者每行每日一角登長年者價當面議從減 每張四百文

告示

關東總督府
陸軍大將男爵 大島義昌

出示曉諭事照得橫濱正金銀行向於上海天津牛莊等埠專爲利便交易起見發行銀元鈔票所有納欵諸凡交易均用該票無異現銀元通用極便商賈爲之暢通實於商務有益已爲人所共知也及至滿洲前爲兵燹之區我日本軍隊使用軍票是以該銀行暫行緩發者也日俄和平滿洲一帶全歸安靖商務亦將見其膺日之興旺我軍隊隨即逐漸撤退所發軍票亦應收回於是橫濱正金銀行茲奉我日本政府允准一面再行發票一面置銀備換以便商務而資滿洲貿易之發達爲此示仰各色紳民紳商等一体知悉爾等[illegible]存猜疑可也倘有奸譎之徒諸言惑衆碍難通用以博漁利者一經查出立即從嚴懲辦決不寛貸各宜遵照無違特示

明治三十九年一月

告示

橫濱正金銀行ハ從來上海天津牛莊等ニ於テ諸般取引ノ便利ノ爲メ銀ト引換ヘキ一覽拂手形ヲ發行シ來リシカ右ハ各種ノ公納其他一般商業上銀貨同樣ニ使用セラレ流通圓滑ニシテ金融ノ疏通ニ資スル處多大ナリシハ業ニ已ニ普ネク知ル所ナリ曩キニ滿洲ノ地戰爭ノ區トナリシニ際シ日本軍隊ハ主トシテ軍用手票ヲ使用セシヲ以テ橫濱正金銀行牛莊支店ニテハ一時一覽拂手形ノ發行ヲ見合ハセシモ今ヤ平和回復シ滿洲ハ茲ニ全ク安靖ニ歸シ商務モ亦正ニ舊日ノ旺盛ヲ見ントス而シテ漸次軍隊ノ裁撤セラルヽコトニ從ヒ軍用手票モ亦之ト伴フテ交換回收セラルヘキヲ以テ橫濱正金銀行牛莊支店ハ再ヒ一覽拂手形ヲ發行シ舊ノ如ク商務ノ便ニ供シ益々滿洲貿易ノ發達ニ資スル所アラントス右一覽拂手形ハ日本政府ノ認許ヲ得テ發行シ銀貨ヲ準備シ隨時交換ノ用ニスルモノナルヲ以テ汝等人民ハ之ヲ信用シ軍用手票ト同一ニ公私一般ノ取引ニ受授通用シテ毫モ疑アルヘカラス若シ夫レ奸譎ノ徒妄ニ浮說ヲ流布シ流通ヲ妨害シ以テ利ヲ博セントスルモノアラハ立トコロニ嚴罰ニ處シテ決シテ假借セサルヘシ各遵奉シテ違フ勿レ特ニ示ス

明治三十九年一月

關東總督男爵 大島義昌

三井洋行

倉庫部

●精製白砂糖新入荷物あり

今回倉庫所在地（青堆子精搗場上陸り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は全所へ御照會被下度願上候（電話百二十八番）

啓者本行開創在中外通商各埠已有年矣所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷

宅合名會社

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤鶴印并一切雜貨其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲綿粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋襪子洋傘鑵表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請暨臨爲幸
總司理人 田中賴之助謹白

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼營有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人 業亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油榨生意多年以本號業非祇做油房壹專及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南營乙第五號專營裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號

係裝運各潮火輪船生意兼賣各都洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北營乙第十二號

恒有長

本號開設在西大廟街路南第十一號廣覊雜貨一應俱全價值格外從廉克己并另設銀爐包鎔銷鑄以應急需久爲中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

元茂盛

油坊買賣元荳油荳餅雜色粮石以及代客購辦雜貨布疋一概發行裝運沙寶船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北營乙第四十九號

代代米烟公司

本行專售日本官造紙烟星象牌（斯達）櫻花牌（捷利）百合花牌（利利）均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆活來福）清香撲鼻佳美適口市價值極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
橫濱 神戶 東京 長崎 大阪
倫動 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺

電話 十番 支配人室 / 百八番 事務室

橫濱正金銀行牛莊支店

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也
松茂洋行商業部 河岸通（電話五十二番）

滿洲日報各地賣捌所
滿洲日報廣告取次所

大連市磯岐町三百三十八號 日華運輸公司
大連市磐城町四十九番地 岡野新聞舖
奉天大南門內景祐宮胡同 全泰號
遼陽 遼陽倶樂部 谷口今朝太郎

森病院

一診察 自午前八時至正午十二時 自午後三時至午後五時
一往診 午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任產婆大道しげ子）

院主 森 矯
醫長 鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿洲一手輸入發賣

江副洋行
營口永世街

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候

三井物產合名會社 牛莊支店（電話六十六番）

和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、襪子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價值格外從廉克己、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

田中牛莊分莊

啓者本舗開設於東營口綏定門外經大阪丸三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉 賜顧者請光臨本舖面閱是幸
田中牛莊分莊謹啓

材木販賣 荒物

秋田洋行

營口永世街第一八四號中野町
本店 下關 秋田寅之輔商店

飯塚工程局 材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本局新到各種木料東洋炸子貨真價實以應各主顧之需
本主人啓

雜貨卸商

在元神廟營口街
關東公司雜貨部

代理 道勝銀行

啓者本行代理道勝銀行匯兌以及押款借款等項格外公道如蒙賜顧請移玉本行帳房面議可也
德商 瑞記洋行代理人謹啓

東京電報

●駐日獨乙公使更任　北京駐紮獨乙公使シュウアルツエスタイン氏は駐日大使に任命せられ駐日公使ワルレー氏は希臘駐剳公使に轉任せり

●減債基金法の決定　本期議會に於ける二大問題の一として數へられたる減債基金法案は政府案通りに決定することゝ爲りたり

●戰時稅法と政府　又前項と共に呼聲高かりし戰時稅法案は調查會を置き二年以內に改正する條件を以て政友會と大同俱樂部との意見一致し政府も亦之に同意したり
（以上二月六日發電）

●浦塩斯德の暴動再發　浦鹽斯德に於ては昨今暴動又々發生せりセリヤーノフ中將重傷を負ひ長崎に遁がれ目下治療中
（二月七日發電）

倫敦電報

●空中飛行者の英佛海峽通過　空中飛行者ボーロツタ及びデールの兩名は去る土曜日の暴風中に倫敦を發し四時間を以て佛國に到着せり、到着地は海岸を去ること二十哩にして時に風雲頗る甚だしかりし、

●露國政府の暴動鎭壓　ポーランド及びバルチツク沿岸州に於ては日々刑の執行あり是れ露國政府が暴動鎭壓に餘念なきことを示すものなり
（以上二月五日發電）

●統一黨の統率者　統一党を統率すへき人物に就て新聞紙は其見を異にせり、スタンダード、モーニング、ポスト及びダロープの三新聞は熱心にチエムバーレン氏を推し他の新聞紙は、バルフオア氏を推せり、タイムス新聞は統一党が現政府に對抗して確然たる政策を標榜するの必要なきを以て此際党の分離を甚しふせんとするは至て不得策なりと論せりバルフオア、チエムバーレン兩氏の私交が至て親密なるは特に注意すべき事とす
（二月六日發電）

雜報

●貴族院の形勢　貴族院の各團體は豫算其他議會に於ける重要問題は各派より交渉委員を出し調査研究の上決定する事となり居れど非常特別稅の如き大問題に就ては各派の意思或は一致せざるやも知れず特に谷子を初め土曜會の一部分は前年來の行掛り上熱心に地租低減論を主張し居る事とて愈々豫算案の同院に廻りたる曉には種々の議論を見るに至るべしと云ふ

●關東總督府條例　關東總督府の權限は從來軍事占領地に對する軍政施行に止まり從て總督以下は關東總督府勤務令なるものゝ下に執務せる次第なるが日清協約の成立に伴ひ政府の對滿洲方針も決定したるを以て不日新に關東總督府條例を發布すべしといふ

●東露の再慘劇　二十五日烏港發長崎なる露人への通信に依れば二十四日夜九時より哥薩克兵と日本より歸還の兵士間に爭鬪あり哥薩克兵の爲め負傷せしもの千五百其三分の一は病院に入りしも其外は道路に橫はる死傷者無數死者の血汐は積雪と相映じ慘狀言ふべからず又哈爾賓を發せる汽車途中にて暴徒の爲め爆發し河中に落ちて三千名の死傷あり黑鳩公行方不明の說あり民心の動搖其極に達せりと

●馬匹と砲器　陸軍部內に於ける多年の宿題たりし馬匹改良論は日露戰役に於て益々其急務たるを認め遂に大計畫を以て馬政局設置案を提出するに至りたるが右實行と相關聯して戰鬪上に至大の影響を及ぼすべき砲に就きても戰役の實歷に鑑み大に改良を加ふべき必要を生じたる由にて不日調查に着手すべき戰鬪砲器の研究にして愈々結了したる曉には軍隊の編成も若干變更せらるゝと共に馬匹改良と騈行して我が陸軍の優逸を發揮するに至るべしと云ふ

●元山の露國領事館　露國驅逐艦ブルブレー號は去月十三日入港して今猶碇泊せるが其後二十日朝に至り軍艦ロシーヤ號又々烏港より入港港外に碇泊しつゝあり斯く軍艦の入港せる理由を聞くに露國は當港に領事館の敷地を得んが爲にて士官二名は每日上陸して諾威人にして海關吏なるヘンセル氏と會見し本國との電報往復頻なりと云ふ而して此のブルブレー號に乘込める士官は戰爭當時當港沖に五洋丸、金州丸を擊沈したる手合なるが平和克復の今日にても居留地に上陸することを非常に恐怖し居れりと同地よりの通信に見えたり

●授勳の一變例　過日報聘大使隨員に敍賜せられたる勳章は從來は外務省を經由するの例なるも今や帝國と韓國との外交は統監府を經由すべきことゝなりたるを以て同府より傳達せられたる次第にて外國人へ勳章贈與に關する手續の一變例なりといふ

●日加新通商條約　此の程締結せられた日本加奈陀間の新通商條約に據れは日本の輸入品及び加奈陀の輸出品に對する關稅は頗る輕減せられ相互に最低稅率を課する筈にて施行期は來る三月なりとオタワ電報に見ゆ

●大學獨立の財源　帝國大學を獨立せしむるの財源として從來神宮廳より發行する例年の曆本を大學の事業として發賣し其收益金を以て獨立計畫の財源に充つれば每年十四五万圓を得べしとの議起り大學側の人々より右に關する意見書を西園寺首相に提出せし由

●伊藤統監渡韓期　伊藤統監は來る本月六日東京を引拂ひて大磯に赴き同十日過ぎ同地出發十五日頃馬關通過釜山經由にて二十日京城に着任の豫定なりと聞く

●凶作救恤運動　東北三縣凶作救濟の爲め右三縣の舊各藩主及貴衆兩院議員より成る東北三縣救恤會にては左の如き趣意書を公にしたり

東北三縣の凶作は之を古老に質すに天保の大饑饉に讓らすと各官廳にては耕地整理其他諸般救濟の計畫を立て地方有志及び團體は有ゆる救恤の擧に出つと雖とも今や其餘力を剩さす町村自治機關の停止頻發せんとして吏員手を額に加へ敎育機關亦沮止して子弟學を廢し而して三縣齊しく戰時の負擔に全力を傾瀉せる爲め庫に米なく厨に粟なく幾十万の窮民各々不自然的死の其身を襲はんことを懼れ山に木皮を拾ひ野に草根を穿ち以て飢餓を凌ぎ來りしも最早之をしも殘さす父母妻子は暗涙に咽ひつゝ東西に流離顚沛乞丐と變するもの踵を接して最早數千戶の多きに及へり然かも時や天寒く雪深く酷烈の飢寒漸次我が薄倖の窮民を襲ひ若し此儘にして袖手傍觀せんか或は慟哭の聲天に徹し累々として餓莩路に橫はるの大慘狀を描き出さんとす是に於て東北三縣出身の舊藩主貴族院議員及衆議院議員一同相謀りて此の焦眉の急を思ひ幾多窮民を人生最苦最痛の悲境より救出せんと期す滿天下の志士仁人幸に一滴同情の淚の惜ます應分の義資を投せられんことを懇望に堪へさるなり

東北三縣救恤會委員長　富田鐵之助

●殘留俘虜數　露國の俘虜は大部分已に輸送濟と爲りたるが尙本邦に殘留し居る者三千九百二十名あり收容所は濱寺福岡熊本にて他は悉く閉鎖したり

●烏港航路杜絶　烏港に使用せし碎氷船は此の程破壞したる由にて爲に入港船舶は當分杜絶の有樣なりと

●桂伯の歐米漫遊　桂伯は辭職後少閑を得たるを以て來る四月頃歐米漫遊の途に上る事に決したり隨員は朝比奈知泉前秘書官杉竹次郞の兩氏なりと

●浦鹽行旅券　開戰前までは浦鹽斯德方面渡航者の旅券には在東京露國公使の裏書を要したるが昨年平和克復に至りたるも露國公使は未だ赴任するに至らず從て裏書をなすもの無かりしを以て引續き今日まで浦鹽斯德渡航者は旅券を要せずして自由に渡航するを得たるが露國代理公使コザコフ氏も既に着任したるを以て從前の如く旅券に裏書する事となりたりと

●二年兵役論

近來二年兵役の事、漸く世間の問題に上るに至りたるが陸軍部內に於ても亦昨今此の問題に關し調査研究を重ねつゝあるもの、如し左れど陸軍部內に於ける二年兵役論は彼の嘗て民間に於て唱道せられたる二年兵役論の如く兵役期限の長さは國の生產力の發達を害すと云ふが如き見地より來れるにはあらずして單に戰時の要員を充實せんとするの目的より起れるものなれば二年兵役制實施の曉は却て經費の增加を來すことゝなるべし現に角二年兵役制の事たる兵制上の一大問題なれば之に關する調査の如き容易に結了せさるへく又た縱令二年兵役制を實行するとも其は單に步兵科のみに止り他の特科兵は敎育訓練に時日を要し又た戰役に於ける損亡寡少なりし等の理由に依り二年制を適用せられざるべしとなり此の問題に關し某將校は語て曰く步兵のみは二年制を實行するも左して差支はあらさるへし左れど軍隊の最も多く要求し且つ戰鬪に際し最も多くの効果を奏する形而上の訓練即ち士氣を養ひ軍紀に慣熟せしむるには果して二年を以て足れりとすへきか今回の戰役に於て我軍が常に劣勢を以て勝利を博せしことを一に此の形而上の訓練の充分なりしが爲めなることを思へば此の一事は二年兵役制を實行せんとするに於て最も顧慮すへき事項なるへし騎兵の如き歐洲に於ては二年制を採用せる國もあれど我國の如き乘馬の習慣少き國に於ては實行容易ならず強て實行せんとせば馬匹の增加を要し從て經費の增加に堪へさるに至るべし工兵は工兵中に架橋專門築城專門道路專門といふが如く種々の分科を設くるに於ては或は二年制を適用し得べけんも第一動員に非常の手數を要し又た戰役に關し彼此互に流用するを得す其極終に戰機を誤るが如きことあるべし砲兵の作業中、最も困難なるは駕馭の術なるが歐米各國に在ては民間に於て駕馬を以て運輸を爲すもの少からさるより假令二年制を採るも砲兵の敎育訓練上左して困難ならさるへきも我國の農家などにては駄馬のみにて駕馬の如き殆ど見るを得さる狀況なれば二年の短日月間に於て射擊の術駕馭の法共に習熟せしめんとするには到底不可能の事なり强て二年制を採用せんとせば射擊の術を學ぶものと駕馭の法を學ぶものと別々にするの外良法なかるへきも此の如き方法を取らば工兵の項に於て述べしが如き不便を來すべし後進國の悲しさには我陸軍も海軍も共に基礎を日常の生活習慣全く相反する歐洲先進國に取れるが故に敎育訓練共に多くの時日を要す今卑近の事例を擧ぐれば年々入營する壯丁の大多數は生來始めて靴を穿ち窄袖の衣を着くると云ふが如き萬事萬端日常の生活に反するが故に單に歐洲先進國に於て二年制を採用したるを以て我國にも採用すべしと云ふは實際に通せさるの議論なり而して二年制を採用することゝならば自然の結果として豫後備役に在るもの、演習召集の如き現制よりは頻繁にせさるからす之れが爲め經費の增加を來すべきは勿論人員の出入頻繁なるが故に旅費の如き大に增加すべく其他武器被服の損亡等目に見へぬ費用の嵩み來るべきは當然の結果なり世間或は經費を增加せずして二年制を採用すべしと論するものあり此の如くんば兵士の敎育訓練共に完全なるを得ず始めより兵を作らさるの勝れるに若かさるへしと云々

●大連短信　大連も近頃は營口と大差なく商況一般に不振にして各店何れも閉口の体也酒、白米等の主なる商品を首め其他一般に物資も潤澤なりと雖も不振の源因は寧ろ市內の不景氣に在り、唯た不思議にも料理店は槪して繁昌を持續せる如し而して就中最も繁昌せるは營口と同じく第一流の料理屋に在り物價は營口に比較すれば稍々安く諸品通じて一割位の下位に在り殊に散髮は甚た安く僅に二十五錢なり營口の六十錢に比較すれば實に半額にも滿たず但し湯錢丈けは營口と同じく一人十錢なり民政署の事業として別に取り立てゝ云ふ程の者はあらされとも近來は頻に滿洲內地の利源調査に盡力しつゝあり

●牛莊郵便局と外國爲替　全局の外國爲替は一ケ月僅々、十四五口乃至二十口にて一口の金額は二十圓位のもの最も多く而して其の行先は英米第一に在り、之に次くは印度也、尙ほ受取人に依りて判斷すれは送金の目的は其の最も多きを占むるは生命保險の拂込みにある如く而して養老其他にて鄉里の父兄に送金する者之に次く如し若し夫れ商業用等の者は郵便爲替には殆んと絕無也、更に送金の爲に局を訪ふ者は十中八九迄は婦人にして其の拂込み貨幣はメキシコ弗を以て普通とす故に局に於ては先づ之を日本金貨に換算し更に又たポンドに換算するか常なりと云ふ

●材木の近況　其後即ち結氷以來に入荷せしは大連經由の板數千噸內外に過ぎされは供給の方面に於ては別に增加せし次第にあらされとも結氷の際として各地共一体に大口の需用を見ず唯た奉天、鐵嶺邊に時々小口の造作材木の輸出ある位に過ぎされば景氣は依然としてダルキ一方なり尤も直段には格別の高下なしと云ふ因に鐵嶺には昨今尙ほ每日多少の輸出を續けつゝありとなり

●木炭の近況　滿洲軍倉庫營口支店に於て舊臘以來約千七八万俵の買ひ入れを行ひたる爲めに大口物は今日に於て全然方付き殘るは唯だ小口物に過ぎず總体に於て僅に一万俵內外なれば他の物資に比較し季節物なり旁々景氣は比較的良好の方なり因に三井の滿倉納付の三万三千俵は昨日を以て悉皆其の納付を終了せし筈なりと云ふ

●紙卷煙草の近況　▲江副商會の談する所に依れは紙卷煙草に於て賣行の最も良好なりしは昨年の八月及び九月の兩月にて當時は江副一軒にて每月の賣高三百箱乃至四百箱に上りたるも爾後漸次不況に趨り今日に於ては一ケ月の賣上高僅々二百箱內外に過ぎす▲更に煙草の種類に付て觀れは賣行の最も良好なるは朝日にて之に次くは敷島と爲す敷島は主に料理屋社會に需用せられ朝日は、上下官民を通して需用せられ殊に近頃は支那人間に歡迎せらる、▲由來支那人の好て用る所の者はピーヌツクの如きピンヘツトの如き兩切品なれは朝日の如きは到底清國に於ては販賣を擴張する六ケ敷からんとは何人も想像し絕望したりし所なるに斯の如く近來に於て支那人間に歡迎の風あるは不思議と謂ふ可し想ふに之れ軍人より傳はりたる彼等社會の一流行ならん▲尙は營口に在る日本製以外の外國品を觀るに其種類非常に多數なるが就中支那人間に勢力あるは上海に於て英米トラストの製造に係る煙草なりとす蓋し日本品に對する最大強敵にして今日に於て既に競爭の氣味あるは以て其將來を想像するに足らんか▲復た其相場に就ては曰く相場は時々變更したるも今日の所卸相場は左の如し

敷島	一箱（五十箱）	入六十七圓
朝日	一仝（仝上）	四十五圓
大和	一仝（仝上）	五十一圓
	但し大連は目下	五十二圓五十錢
チエリー	一仝（三十箱入）	四十四圓
スター	一仝（仝上）	四十七圓
リリー	一仝（仝上）	四十一圓
ロングライフ	一仝（仝上）	四十一圓

因に朝日は今日長春地方に於て盛に露兵に歡迎せられつゝありと云ふ而して其價は一箱十二三錢なりと

●昨今の郵便切手賣上高　牛莊郵便局に於ける昨今の郵便切手の賣上高は一日平均二百圓內外にして其內譯は郵便局八九十圓小包取扱所五六十圓市內各賣下所五六十圓也試に之を其最も多かりし昨年の十一月乃至十二月頃に比較すれは凡そ半分にして當時は單に郵便局丈けに於ても一日三百圓位の賣上けありたりと云ふ

●兵舍の燒失　昨曉七時頃牛家屯駐屯の第三十一聯隊に失火あり、兵舍一棟を燒失せしも人体及び公用書類其他大切の物件に寸毫の損失なかりしは不幸中の仕合なりしと謂ふべし原因は過失に在りと云へは時節柄各人最も注意を要とすへし

●明治旅館の不埒　一日に三圓乃至五圓と云ふ高價なる宿賃を客に請求し夫れにも飽たらす雇女而かも其筋に制規の屆出をなさゞる者をして春を賣らしめて己は日々珍味に舌を打ち恐悅がるとは隨分圖々しき人間もあればある者なり、現時永世街居住明治旅館事濱田安治郞（卅六）は內緣の妻松藤シゲノ（廿三）及びシゲノの甥なる同姓又五郞と共謀し又五郞をして肥前島原に行かしめ浮世の雨風に馴れぬ、林田サイ、中尾キクヨ、宮田フイ、平湯タツ、山坂チエ等を言葉巧みに誘拐して昨年十一月中頃當地に連れ來り其筋に居留屆もなさず今日迄窃に彼等五人をして每夜客に接せしめたる事を慧眼なる其筋の探知する所となり昨日司法部に關係者一同召喚せられ平島曹長の手に於て取調中なりと實に不埒千萬の男なり

●裸体寫眞及寫眞器の押收　永世街第　号元東雲玉芙樓隣家居住濱島治郞助（卅六）金山德三郞（廿五）濱島彥三郞（十九）太田チエ（卅六）の四人は共謀し日本人及び朝鮮人の裸体寫眞を盛に複寫し當地は勿論滿洲內地に賣捌き尙瀨りに復寫中の處を其筋にて看破し昨日憲兵臨檢し寫眞器及び附屬品其他出來揚り裸体寫眞等悉皆押收せられたりと云ふ

●でたらめ草　皮膚の色を白く軟かにするには檸檬（レモン）液とクリームとを等分に調合したものを用ゐるがよい▲麩（フスマ）即ち饂飩粉の糟で普通乾物屋に賣つてある麩を糠と同しやうに袋に入れて用ゐるのもよい▲此二法は最近に歐米に行はるゝ美婦人の化粧法ださうなが斯ういふ簡便な事で營口のスベタ女郞衆の標致が二三割も好く爲つて呉れゝば誠に恐悅至極の次第である（△△坊）

火車開行

▲上行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
新民屯至溝幇子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇
山海關至唐山	上一二、一八	下六、二〇
山海關至天津	上五、〇〇	下五、五五

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四一
北京至塘沽	下二、四〇	下八、三〇

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間下り列車

驛名	發着	時刻	
大連	發午前	九、〇〇	
金州	着	一一、〇九	發 一一、二九

上り列車

驛名	發着	時刻	
遼陽	着午後	三、五〇	發 四、五五
大石橋	着	一〇、三三	發 一一、三五
金州	着翌前	二、二〇	發 三、一〇
大連	着	五、三三	

旅順	發午後	二、〇三
大連	着	五、三二

大石橋營口線下り列車

大石橋	發午前	一、〇〇

天氣

營口地方　自昨日午後六時至本日午後六時

社告

東北凶作地窮民救恤義捐金募集

東北三縣の凶作は國家近來の大慘事たり之を天保年間の大饑饉に比するに優るも讓らず各官廳及ひ地方有志は夙夜救濟の道を講ずと雖も窮狀日に益〻甚しく翅に地方自治機關の之が爲めに停止し國民教育の之が爲めに沮滯せるのみならず幾十萬の窮民坐して死を竢つ能はず山に木皮を拾ひ野に草根を掘り僅に露命を繋ぐに至る而も今や時冬天に會し饑寒交々至りて復た食と衣とを得るの道無く父母妻子東西に流離して乞丐と變じ餓莩路に横はるの慘劇將に兼らんとす是に於てか我内地に於ては東北二縣の舊藩主貴衆兩院議員等胥謀り東北三縣救恤會なるものを起し以て是等窮民振恤の方法を講じ在京各新聞通信社亦其擧を賛して均しく義捐金募集に着手せり我社固と涓埃の力致て當るに足らずと雖も其慘狀を聞くや既に久しく同情の念轉々已む能はず遂に聲援を我同業者に致し以て幾多窮民が焦眉の急を救はんことを期す江湖の君子庶くは本社の微意を諒とし應分の義資を投ぜられんことを其規定左の如し

一、義捐金額は一人拾錢以上とす
一、受付期限は二月二十八日迄とす
一、義捐金は直に本社に送附せられたし
一、本社が受付たる義捐金は毎日正金銀行に保管預入を爲すべし
一、期限後は之を一纏めとし東北三縣救恤會に送附し其配分方を托すべし
一、義捐者人名は本紙廣告欄に掲載し受領證に代ふ

明治三十九年二月七日

滿洲日報社

雜報

●日本と韓國（倫敦タイムス）

▲日本は平和克復の後に於て韓國と協約を締結したるが是れ戰勝當然の結果として日本の宜しく爲さゝるへからさるものなりき。初め日本の露國に對して砲火を開きしは、韓國に於ける露國の絶えさる陰謀密計に促かされて已むを得ざりしに因る。蓋し韓國政府の劣弱、腐敗、及ひ狡猾なりしは、詭計術數に富める露國外交家の乘して以て誘策を逞くするに都合好き機會を與へ、彼等の藉りて以て其目的を遂せんとせし技能と才幹とは、日本將來の發達を脅かし且つ其安全平和を危くする原因と爲り全然之を阻遏するに非すんは到底安寧を保ち平和を樂むことは能はされはなり。而も日本は露國に對して國交斷絶の處措に出つる、前有ゆる手段を運らして平和的協定を遂けんとしたりしも、露國の頑冥驕傲、必す其慾を滿たさんことを計りて敢て狡計を纏らしつゝあるを察するや、乃ち斯る脅嚇より脱して恒久の安全と平和とを得るか爲め斷然露國に對して戰を宣したり。

▲ポーツマス條約に依り、露國政府は日本が韓國に有する軍事上政治上經濟上の利權は、至優最上にして且つ無比絶大なることを承認し、日本が韓國に對して必要と感ずる指導、保護、及ひ監督の處置を妨礙若くは干渉する如きこと無かるへきを約し、加ふるに日英同盟條約の第三條に於ても韓國に於ける日本の諸權利を承認したりしが、かく韓國に於ける日本の諸權利を承認したりし事こそ即ち新條約の明かに千九百二年に締結せし舊條約と異なる點たること、實にランスダウン侯が新條約の本文の寫を佛駐在英國大使に送致せし際に示陳せしが如し當時侯は新條約の舊條約と異なる所以を陳へて、韓國は日本と接近して離るへからさる關係を結び、隨て獨立特行に堪へ能はさるに至りしに因り、全然日本の保護監督の下に立たさるへからさる者なりと言へり。而して日露戰爭の開始せられし初めより、日本は韓國に對して保護監督者の位地に立たさるへからさるを確言せしこと屢次、現に伊藤侯は千九百四年三月中に重要なる特命を帶ひて韓國に差遣せられ、次いて本年一月に至り、日本の在韓國財政顧問は韓國通貨問題に關して大に論する所あり、且つ長谷川大將の助言を聽納して陸軍の大削減を行ひし結果、多大の軍費を節約するを得たりしか、今や此の兩國、一は宗主的地位に立ち、他は從屬的地位に立てる此の兩國の間に最後の協定を成すへきの時正さに到來したるか如し。

▲日本は此の最後の協定を完成するが爲め、特命大使を韓國に派遣したりしかど、由來韓國の政治家は遷延を以て唯一の方略と爲せること宛も清國の政治家と同しく、特に其の開發進歩せる隣國の保護監督を仰くへきことを約するに方りては、常よりも增して一層時日を遷延せんことを計り、而其結果韓國皇帝か竟に日本の提供を承諾したりしは尙ほ近き既往に在りて、我か在東京特派員の趣味ある報道に據れは、日本は韓帝の確諾を得るか爲めに少からす力を勞したかも〻如く、就中最後の談判は滿三日に亘れり。當時韓國側に於て百方反對を試み力及はさるに及ひて終に全く屈服したるやに推想されさるに非さるも、事實は則ち然らす、唯た韓國皇帝か恰も北京禁廷に於ける彼れの大儀表と同しく、深夜を以て國事を討議するの常例たるに因るのみ

▲然れとも日本の特命大使たる伊藤侯か、其の代表せる國家の有利なる協定を遂くるか爲めに多くの困難に打勝たさるを得さりしこと掩ふへからす、而も能く困難を排して有利の協定を遂くることを得、日本の統監を韓國京城に常置することゝ、及ひ韓國の外交權を日本に委することを定め、日本をして韓國の保護監督の任に當らしむへき有力の機關此に於て成立し、而も他方に於て毫も韓帝の尊嚴と名譽とを傷害するあらす、要するに今回の協定は實に根本的且つ究結的のものにして、此の新協定の下に於て韓國は即ち進歩發達の新運に入るを得へく、依りて以て既往の積弊と腐敗とを一掃するを得るなるへし。夫の韓國政治家及ひ宮廷の寵臣等の頑冥陰險なることの若き、固より以て日本の新勢力を阻礙する所以のものに非す、抑て日本政治家の堅忍不抜にして且つ實際的手腕長せるは、漸て着々改革の實を擧け、韓國の上下をして齊しく其の恩惠に浴せしむるを見るならん。

●滿洲の養蠶業

關東州民政署は昨年滿洲の農商工業に關する利源調査の爲め各地に人を派遣したるとは既に世人の熟知せる所なるが其報告中齎らす所の結果に依れば養蠶業の如きは頗る有望のものにして其產額は五六百萬圓の多きに達し豆類に亞での重要輸出品なるが其產地は南滿洲に限られ中にも奉天以南岫巖析木城邊までの山間に最も多く飼育せらるゝ其蠶類は家蠶もあれと其量極めて少なく自家用として僅に飼育せらるゝのみ大部は所謂柞蠶なり養蠶季節は春秋二季なるも春蠶は僅に秋蠶の種を取る爲めに飼育し隨つて其量多からず主として秋蠶に重きを置く土民は大部分を蘭の僖安東縣に送り同地より罘芝に輸出す其量は年々不同なるも二萬籠乃至四萬籠にして十月より十二月に至る輸出季節は貨物輻輳し非常の盛況を極む又一部は絲に製し蓋平に集合して北清に輸出せらる飼育方法は山間に簇生せる柞樹に放飼し四眠の後成繭するまで三四週間は小舍を結びて晝夜監視す柞樹は一定の地に栽培せるも尙野に生して蠶兒の放飼されさる箇所甚だ多く將來極めて有望なりと

廣告

公示

一、厚皮燒屑　二十貫匁
一、短靴燒屑　二十組
一、冬綿絆袴下燒屑　四百貫匁
一、カタン糸燒屑　三百個
一、羅紗燒屑　五十貫匁
一、燒屑鐵具類　三十貫匁

右明治三十九年二月十日午前十一時牛家屯兵站司令部に於て競賣ス依テ本日ヨリ現品ノ縱覽ヲ許ス牛家屯縫靴工廠ニ付テ見ルヘシ

明治三十九年二月一日

營口兵站司令部

東北凶作地窮民義捐者芳名

一銀一圓　營口本願寺　寺本秦巖
一仝一圓　營口永世街　權太觀吉
一仝一圓　同　權太よし子
一仝二十圓　領事館　瀬川淺之進
一仝五圓　同　太田喜平
一仝五圓　同　片山敏彥
一仝五圓　同　杉野鋒太郎
一仝五圓　同　佐藤今朝藏
一仝三圓　同　三宅新太郎
一仝一圓　同　桝田元重
一仝一圓　同　增田岩右衛門
一仝一圓　同　千葉胤麿
一仝一圓　同　荻原正紀
一仝一圓　同　柿崎末四郎
一仝一圓　同　峯十太郎
一仝二圓　營口重盛街　押原彥陸
一仝二圓　同　勝山榮吉
一仝二圓　同　後藤寅藏
一仝二圓　同　北島元泰
一仝二圓　同西北街　米田喜平

計六十一圓

廣告

明治參拾八年十一月廿九日夜警の件に付き協議を要すへき事あるを以て日清兩國人よりの委員全部と清國營口公議會員二名とを第一派遣所内に招き協議せしめたり

最も夜警を設置したるは明治參拾八年十一月下旬にして日清兩國人の委員として夫れ〳〵軍政署より指名せられ其委員に於て其事務を擔任し來りたるも日清兩國委員間に於て是迄意思の疏通せさる爲めと側ら協議を要すべき點とにて本日特に全部召集會見協議せしめたるものなり當日日本人側より谷口今朝太郎、村山彌吉、永島貫二の三氏出席他の三名委員は旅行中又は用務の爲め欠席せられ清國人よりは全部出席せられたり協議したる件は左に

一是迄の夜警は人員不足にして未た充分に第一派遣所管内を巡視する不能依て一月一日より更に八名を增加せしめ（當時十二名）一層當派遣所管内の各衙を嚴密に巡視せしむると

一八人の增加と共に其費用も倍〻增加するか故是迄日本人側より其全部費用の三分の一を負擔すること〻なりをりしも（約一ヶ月百五十圓の見込なりし）一月以降は日本人側より每月百五十圓を支出し他は清國人より支出負擔すると

但し二十人の夜巡夫は一ヶ月一人十五圓づゝにして二十八にて三百圓當地家賃油炭其他雜費等約五十圓其他柏子木角燈修理代等にて合計三百五十圓

一雜て夜警に要する物品は公議會より支辨すると

一日本人側より支出する金額は其月廿五日迄に取纏め第一派遣所憲兵の手を經て公議會に交付すると

一夜巡夫の監督は軍政署に於て監督せらる

一夜巡夫に於て巡視中火災盜賊其他安寧を害する事あるを發見し特に功勞あるものは日本人側より賞與すると

右の通り第一派遣所受持憲兵井元勇馬氏立會の上決議仕候條此段及報告候也

十一月十二日決算報告

一銀二百七十五圓五十錢也　徵收高

內譯

一銀七十五圓二十錢也　十一月分夜警巡夫費
一銀百五十圓也　十二月分夜警巡夫費
一銀四十六圓三十錢也　帳簿幷に廣告料及び事務員給料其外雜費
差引殘金十八圓也

右之通報告に及ひ候也

營口第一派遣所管內

夜警委員

募集公告

當局電話交換手募集す志願の者は(日本人にして年齡十六歳より二十五歳まで視聽力完全身体健康なるもの)自筆履歷書携帶當局へ出願す可し

營口軍政署電話局

廣告

一本社は滿洲及蒙古の事情を日本各地の新聞社通信社及團体若くは個人に通報し又日本の政治經濟社會上の狀態を滿洲各地に於ける團体若くは個人に通報するを以て目的とす

一本社は今般東京通信社と特約し最も敏速なる電報通信を以て帝國議會の情勢及諸般の出來事を報道せしむ在住邦人にして電報通信を購讀せんと欲する御方は至急御申込みあれ

元神廟街四十四

滿洲通信社

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL ENGINEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

歐米各國最新流行形

西海洋服店

永世街一四一(森病院三軒目)
(電話百二十七號)

藝妓仲居新來御披露

此度新たに內地より藝妓仲居十數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候　草々

營口

高砂ホテル

高砂

(電話一四五)

一關內外蘆漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續　事務取扱
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶荷物取扱　但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號

大清通運公司

營口支店

高等旅館　彌生館

營口永世街

館主　宮下只七郎

(電四二)

御料理　滿月

平野町一八二(電話一六二)

御料理　滿月支店

平野町(元都樓跡)

今般內地より撰り拔きの別嬪數名呼寄候に付不相變御引立の程希上候

店主　青木勝惠

旅館　富喜樓

室內は極清潔防寒之設備あり鐵嶺驛へ滊車到着毎に日本人の案內者出張致し居候

鐵嶺城東門外南へ一丁余南大街

樓主敬白

Yano & Co.
矢野洋行
電話一三七 Telephone No. 137

諸雜貨、家道具類、吳服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

石材、碎石
瓦、煉瓦
並に自家製造 廉價販賣

營口元神廟街四十號第二號
順吉洋行

正札特別廉價
雜貨 賣出し

一婦人髮道具一切及化粧品色々
一防寒シャツ手袋類
一靴下帽子類
一罐詰及履物
一小間物一切
一賣藥色々

質屋
永世街病院隣
和清洋行
志田ます

風藥
登錄商標

上咳 祛痰散

哮喘氣急、多痰喀血、咳嗽痰稠、各種喉症、胃痛胸痛、甚至塵臥不安、飲食不進、或誤醫東手百藥罔效服用此散不論初起遠年立刻見效眞水火既濟之良方也

◎たんせき一切
◎肺病の特藥
◎ひきかせ

醫藥醫料器械賣
賣藥寫眞藥
營口永世街(東順泰東首)
大阪賣東瀛大藥房

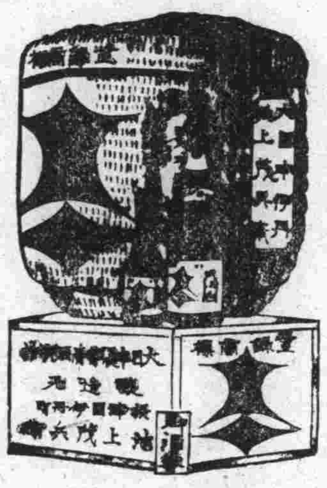
澤亀之醇良にして風味高尚

札幌ビール
朝日ビール
並に
政府專賣口付紙卷煙草 朝日 大和
酢 醬油 瓶詰樽詰
菓子 罐詰色々
洋酒類 取次販賣

釀造發賣元
宅合名會社
本店 大阪府堺市九間町
小樽支店 北海道小樽湊町
臺北支店 臺灣臺北街書院
基隆支店 臺灣基隆街石牌
臺南支店 臺灣臺南街下南河
函館出張店 北海道函館區辨天町
遼陽出張店 清國遼陽城內西街
大連出張店 清國大連監部
營口支店 清國牛莊港東營口

會席料理
三日月

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開放全時一開業
奉天小西門外大街路北



滿洲
大販賣所

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店へ御來店アリタシ

遼陽停車場前
池上出張店
奉天
池上出張店

SPECIAL LIGHT
(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり
スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり
スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり

釀造元 大阪朝日麥酒株式會社
營口發賣 關東公司雜貨部

標子 木板 料木
發賣
營口青堆子
清水寧木局

讓り渡し
弊樓現在の家屋疊建具付の儘讓渡し度候に付御望みの御方は至急御來談被成下度候
二月四日
平野町
春帆樓

營口中央市場前
萬事便利乘車乘船好位置
旅館 東京樓
店主 熊田兼次郎
(電話百七十八番)

即席和洋料理
東京樓支店
(電話四十四番)
西洋料理仕出し御需應にず

特別室落成披露
座敷は凡て日本式取扱主極鄭重に可仕候間陸續御來宿あらんことを伏て奉希上候
金城ホテル 旅館部

藝妓 仲居 新來披露
今回藝妓酌婦無類の別嬪數十名件れ参り候間不相變御引立の程奉願上候
但し凡て純粋の江戸つ子
金城館料理部

東營口郵便局東隣
島田洋服店
新民屯停車場前
同支店

軍隊用雜貨
日用品雜貨
吳服太物類
化粧品類
陶器類
食料品類
卸小賣
其外新荷着精々安價販賣
營口永世街七十號(第二市場東)
石原商店

官製口付莨、文房具
和洋酒類
白米
罐詰、菓子
藥品、雜貨
醬油瓶樽詰
卸商
防寒具、安價販賣

十
營口西北街
豐生洋行
(電話十三番)

御旅館並に待合所
今般大々的勉强を以て右營業仕候間御乘降の都度御休泊被下度奉希候
並にうどん、そば
牛家屯停車場前
若松家
各位樣

和洋會席 御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に準附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町
日本館本店
(電話百三十番)
奉天小西門外大十字街北入橋町
日本館支店
各位樣

營口永世街
營口印字局

時刻

塘沽至北京　上六、〇〇　下二、二〇
天津至北京　上二、〇〇　下五、二〇六
山海關至北京　上八、〇〇　下六、四五

天津至山海關　上六、……　下一、五八
唐山至山海關　上七、〇五　下四、五五
山海關至營口　上三、〇〇　下六、五七
新民屯至奉天　……

奉天上り列車
天若午後　一二、〇六
天殿午前　一一、〇〇

大連……
旅順……　發午前　七、三〇
……　一〇、四九

營口……
大石橋……　發午後　十〇、二五
著翌前　一二、二〇

預報

昨日の氣溫

	昨日の氣溫	昨年との比
最高溫度	廿八度四	高六度三
最低溫度	三度七	高〇度九

宮門抄

初九日　王中堂等同鄉官謝　恩　瞿鴻禨等同鄉官謝　恩　王中堂續假

十五日　侍衛處奏派稽察　壇壝

派出　恒順　英慈　誠全　額勒春　塔克什訥　桂鶴

召見軍機

外務部遞封奏一件

上諭恭錄

正月初十日奉

上諭張曾敭奏請將浙江各屬荒廢未種田地山塘蕩漊懇免應征地漕等項並新墾之產分別征錢一摺浙江杭州等各屬荒廢未種各產尚未全行懇復若將地漕等項照常征收民力寔有未逮加恩著照所請所有仁和等二十六州縣暨杭嚴衢三所仍荒未種暨沙淤築塘挖堀壕壘坍廢並新墾缺額民屯學籍沙牧各田地山塘蕩漊應征上年地丁等項正耗錢糧漕泊等項著一併全行豁免其臨安等七縣新墾田畝等上年全蠲本年半蠲仁和等縣及杭嚴衢所民屯田地山蕩著酌征五成蠲免五成以紓民力餘著照所議辦理該撫即刊刻謄黃徧行曉諭務使寔惠均霑毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱之至意該部知道欽此

上諭張曾敭奏查明兩浙被災塲灶蕩田及仍難墾復灶蕩請將應征灶課錢糧分別蠲減緩征一摺兩浙塲塲　上年夏秋間節被風雨潮蟲以致禾棉受傷若將灶課錢糧照常征收民力實有未逮加恩著照所請所有海沙蘆瀝杜瀆橫浦浦東下砂二三六塲成災灶蕩並海沙塲潮患難墾杜瀆塲其下砂二三塲歉收灶地照額減免二成其勘不成災之海沙等塲歉收田地應征上年灶課錢糧一律緩至本年秋後啓征以紓灶困餘著照所議辦理該撫即刊刻謄黃徧行曉諭務使實惠均霑毋任吏胥舞弊用副朝廷軫念民艱之至意該部知道欽此

論說

論刪定律令

自古未有不得其人、而能致太平之績者、亦未有不立其法、而能得刑賞之公者、雖然治人與治法、要自有輕重後先之故、不得概以相繩也、彭蒙有言曰、聖人者、自己出也、聖法者、自理出也、理出於已、已非理也、已能出理、理非已也、故聖人之治、獨治者也、聖法之治、則無不治矣、法苟大定、得其人而明之、遂成無上之治、即未眞得其人、而步矩繩趨、守其法而勿失、亦不至爲天下所訴病、善哉、漢宣帝置廷尉平、鄭昌謂不若刪定律令、誠得古聖王以法定天下之遺意矣、夫獄者天下之大命也、死者不可復生、刑者不可復贖、漢孝武朝、作見知故縱監臨部主之法、以致姦猾巧法、律令煩苛、大辟之罪、歲以萬數、宣帝以路溫舒上言、置廷尉平、而於每季秋請讞時、親幸宣室、齋居決事、其於訟獄之曲直、審之又審、而設以專官、重以親聽、知必有公正嚴明、足以震懾人心者、不知律令未經刪定、即使聽斷維嚴、訟無不理、而可以治一時、未必可以治萬世、設後世有暴虐之君、佐以橫恣之臣、因緣爲奸、罔識法度、或罪同而論異、附已者則從其末減、遂已者則苛以深文、流毒之深、莫此爲甚、誠定以律令、使愚民知有所避、而猾吏更無所容、政簡刑淸、既可爲國家培忠厚之基、亦可爲百姓養和平之福、長治久安之道、更有舍此而他求者乎、而或者曰、法非所以制天下也、以法制天下、法之所不及、天下斯欺之矣、而抑知法也、而以至誠出之、自足感動民心、而悉爲法之所莫外、先王之立法也、必使人知其不我欺者、並非法之所禁、亦其中有所不忍而已、語曰有法制繫於民生、而無道德者爲無體、此又言法以重人之道也、善法律學者、其於此加意焉可、

中外要聞

●政務處會議考道府記名人員　聞政務處會議以各部院記名道府人員爲數甚多亟應考察其才具如何以備錄用擬即咨行各該衙門由堂官出具考語咨送本處會同考察註册存查

●派員調查日本憲兵制度　探聞江督周玉帥因現在江南一省創行徵兵之制不可不設憲兵以爲衆兵模範且藉以補警察之不及故於派員赴東勸慰留學生時又特加札飭令梅觀察順便調查日本憲兵詳細制度以便歸國後斟酌仿行

●近兩年實業之比較　據商部乙巳年紀事表所載各項公司呈請註册保護者共有六十二宗比較甲辰年增多五十三宗又核准開採各礦共有三十一宗比較甲辰年增多二十六宗此固政府提倡振興之力亦以見商智日開漸知保護之益從此日進不已何難與東西各國爭勝於商戰之場耶吾國實業前途蓄猶有無窮之希望在

●以後之簡駐藏大臣　聞駐藏大臣之缺將來擬簡兩人一爲正使一爲帮辦大臣滿漢並簡分段駐劄以資照料

●東省增設鐵路護兵　山東膠濟鐵路由前撫胡鼎帥奏准設馬步巡兵二百名以資保護自楊中丞到任後以此路自濟南西關起至環界外丈嶺車止綿長七百餘里不敷分佈又經添募馬步巡兵三百餘名近因膠濟德兵撤退環界內之鐵路亦歸中國自辦巡警故於塔耳埠至白沙河特派駐巡兵二百餘名又於附近交界地方派駐巡兵一百名計共添官弁兵役七百餘名

●議設新伊總督　探聞政府會議以新疆伊犂等處邊防重要交涉日繁擬奏請裁撤伊犂將軍改設新伊總督俾與新疆巡撫協力圖維以資治理而固邊隅

●條奏熱河三大要政　聞松鶴帥於去職到京後即條奏熱河三大要政(一)圍場荒地(二)查勘熱河全部礦產(三)修築承德府至北京之鐵路此摺已交商戶二部會議覆奏

●蒙王啟赴日本留學　伊犂屬蒙古舊土爾扈特郡王出洋遊學一節聞該郡王刻下止在豫備擬於正月杪或二月初啓程赴日留學數年然後回國並聞該郡王初次本擬赴美留學現改爲留學日本不赴美國云

●庫倫大臣之要電　庫倫大臣電達外務部云中國新訂之稅則已經知照俄使而俄使亦已承認照辦奈該處俄商皆以未得俄官告示爲辭不遵新訂稅則凡皮毛茶磚及各項雜貨概不照納捐稅應請即與俄使商定云外務部接電後當即照會俄使而俄使允爲電達駐紮庫倫之俄領事飭俄商遵納捐稅

●電請拒絕黑龍江支路　近來俄國東清鐵路總辦欲布設黑龍江幹路旁之支綫蓋因失去長春以南之權利故欲於此擴張其權利以代之黑龍江將軍因致電外務部云本省之礦產及鐵路權大半已歸俄國之勢力今若承認此支綫之布設則恐本省之主權皆在俄國之手故俄國如有所要求宜斷然拒絕之云

●哈爾濱亂事各執一詞　西報云本月初在恰克圖有亂事該處俄兵遂乘機刦掠中國茶商失去貨物二萬餘兩俄商亦有所失俄官遂照會庫倫華官言肇事者爲華人俄商所失須經華政府賠償華人則起事者爲爾庫司克之俄國革命黨瞿鴻機遂聯同那桐聯芳照會外務部言俄員索賠殊不合理頃外務部已向俄使詰問矣

●日華學生會規則　東京中日兩國學界志士創辦日華學生會以聯絡兩國學界睦誼而資研學一節屢誌前報現本館因接此會章程照錄全文以資學界中人之參攷焉

日華學生會會則

第一條　本會名日華學生會

第二條　本會以日華兩國學生組織之

第三條　本會因日華兩國學生之親睦彙以開進彼此之智德爲目的

第四條　本會隔月開例會一次

但依時宜得以變更之

第五條　本會於兩國學生中置若干委員以經理本會事務

第六條　本會主重學校爲補助本會之目的起見可置委員

第七條　本會置事務所於左

東京神田區錦町三丁目　錦輝館

第八條　本會受日華兩國有志者之寄附金以補助費用

●奉省大憲注意錦州墾務　孫太守致齋前曾隨廷星使辦理西流圍荒故墾務極稱熟悉錦屬二十二處試辦續墾之地皆棱有期明春將開局辦理清丈惟此事易於擾民非老成熟悉之員不能肩此重任趙次帥與廷卅帥特會商酌派孫太守暫署錦州府並辦清丈事宜不日即將蒞錦矣

●趙次帥調查吉黑兩省新政　次帥以東三省休戚相關理應不分畛域刻下吉江兩省新府肇興俱與奉天有絕大之關係故特派忠大令前往調查

白話

●奉天將軍白話告示　照得奉天釐捐一項　係咸豐初年開辦的　事在斗秤設局之先　所以斗秤歸局徵收　釐捐歸捐輸局各旗衙　徵捐　雖斗秤納捐的貨物　比釐捐貨物少　究竟同此貨物　這一處抽斗秤捐　那一處收釐捐　於商民實爲不便　况且時局不同　不便再有釐捐名目　所以本軍督部堂將釐捐改爲銷塲稅　並歸斗秤局辦理　另有一宗銷塲稅兩聯票　以示區別　名目雖換　辦法仍同舊日一般　並不在值一之外　稍有加增　更不准斗秤局員司人等稍有需索　爾商民均應體貼此意　不得妄事驚疑　無故滋擾　亦不得偷漏隱匿　希圖免稅　倘有前項情事　便係不安分的人　惟有分別懲罰　以儆效尤　除定章分札飭遵外　出示曉諭　爲此示仰商民人等一體知悉凜遵勿違　切切特示

NEWCHWANG, THURSDAY, FEB. 8, 1906.

THE "VICTORIA ROAD INCIDENT" (Part II).

At all events, they have seen one of their countrymen, a Chinese subject——a poor, ignorant, stupid, insignificant person of a policeman's standing——deliberately committing, in public view and under the eyes of the cavalry escort, an act spelling sacrilegeous treason against the Imperial Prestige then clothed in the Senior Viceroy of China and the Organizer of the New Chinese Army. Supposing the British ratepayer had had his say, and not a chastizing Chinese finger could be laid upon the Chinese offender. Here, the Imperial Prestige defied in open daylight, not by a foreigner, but a native of the humbler classes among the 400,000,000 subjects, whose reverence It ought to command. And yet, the desecrated Prestige were powerless to administer a penalty! To-morrow, might It not be dragged through the mire as an object of public jest by anti-Dynastic callous multitudes? Territorial integrity barely guaranteed without, the flimsy, shaky House of China might come, at the start of re-constructive work, to a collapse of itself with a crash in a confused heap of blood and fire. The Viceroy who could have guarded no better the Sacred Prestige invested in him, would have been hardly worth the peacock feathers on his cap. It would have also furnished his many enemies with a capital chance to relegate him into disgraced oblivion. Besides, discipline is everything in an army, most emphatically in the Chinese army. If the supreme head of the army re-organization were to be publicly insulted by a humble Chinese and yet too helpless to resent it, what a sort of discipline could he hope to maintain in the barracks, not to say in the camps? How could officers and men be taught to respect so weak a gelding as that? What would be the good of going into the enormous expense and trouble of keeping the troops and raising more afresh, among who on discipline and respect to authority may exist only in form, but nothing in the spirit? With such troops to depend upon, how could China aspire ever to be able to preserve order in peace and to defend her rights in war?

It would be a veritable insult upon the Viceroy's intelligence, were any one to presume that the grave far-reaching significance of this apparently trivial offense, which may be interpreted by the operating British law as but a minor misdemeanor, with an extenuating feature in that it was the upshot of overzeal to duty on the part of a faithful but tactless policeman, could have slipped the Viceroy's comprehensive perception. He was brought face to face with the imperious necessity of demanding the surrender of the constable. He could not reconcile himself to the British taxpayer's view, even if he could admit the simple but sound logic that sustains it. The cost of such a concession would have been as terrific as irretrievable. For, it would have amounted to the voluntary undermining of the Dynastic foundation, not to mention his political suicide. Thus, these two views were radically incompatible and in themselves could never meet.

The impending practical question with which the B.M.C. was confronted, lay in seeking some common point at which these divergent views might harmoniously blend with honour. What if no amicable solution was possible without mutual tolerance? Would it enhance the glory of the British Municipal Council any to pose between the intending duelists, like a gaping clown driven to his scanty wits' end, and let them fight it out to the finish to settle their differences? Irreconcilable as they are in this dispute, neither would have given way an inch of his ground. The moral stake was so very heavy. Yet, what would be the ugly wound both were to come out of it with, the canker of which would never heal in either's breast. "The courteous and friendly relations which had existed for over forty years between the Viceroy and his predecessors on the one hand and the Council on the other," would be brought to an abrupt end. Were both to part never to come across one another's path again? The seeds of mutual feud so sown would take root and grow up side by side to outsuck each other. Both would gain nothing but heavily lose. Has the Briton in Tientsin no rivals to compete with in trade and in influence? Has not China suffered enough, without now losing a most just sterling friend in the Briton?

營口旅館料理店案內（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五一） 店主 麻田久二

旅館 大和館 永世街十一號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

御料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

料理旅館 醉花園 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

旅館料理 金城ホテル 永世街百六十六號 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街 / さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

和洋御料理 第二東京館 元神廟街 店主 松田平四郎 東京一流 かき飯

御料理 柳亭 叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 並ニ溫泉 一力 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 本店 松月亭 營口元神廟街一四三号

和洋料理御旅館 支店 滿洲ホテル 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業 日營ホテル支店 主任 井上源吉

御料理會席 菊水館 主任 朝枝團捲

旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀨宇吉

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 凱旋亭 色々應御注文 主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

爲替相場（二月六日）

上海は百圓に付六十七兩二錢五分

天津向は百圓に付一百〇八五圓五十錢

芝罘は天津と同直段

日本品最近物價表 加藤洋行調査

菊正宗	三斗九舛入	銀二十圓
麒麟正宗	四斗四舛入	同十七圓
菊正宗	瓶詰四打	同十五圓
鮪	四打入	同十三圓
ラツキヨ	五打	同十四圓五十錢
辛子漬	四打	同九圓五十錢
フキ	仝	同八圓
粟	仝	同十四圓
煉ミルク	仝	同十八圓

石炭（飯塚工程局）

一上等塊炭 一噸ニ付 銀十八圓

一仝 切込 仝 仝 十七圓五十錢

MANCHURIA DAILY REPORT.

Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.

本紙定價

一枚ニ付 銀四仙

一ケ月前金 銀八十仙

半ケ年前金 四弗八十仙

一ケ年前金 銀九弗六十仙

會席 御料理 玉家 主任 西野治三郎

御料理會席 來々亭 主任 石田清

料理 鋤燒 喜樂亭 營口元神廟街 亭主 元權益

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
營口綏定門街 シップ商會東
喜川鐵工場

天津 御旅館 芙蓉館 駐屯軍御用 並西洋料理（電話四十一番）

北京 扶桑旅館 東單牌樓大街路西 客室淸潔料理鮮新

御旅館 豐陽館 日本郵船會社荷客取扱 歐米滊船乘船取扱 上海（電話一〇六番） 館主 米田藤吉

發賣 料木 檩子 木板

塩川商會

清國營口二本町二五五號 主任 鹽川峰吉

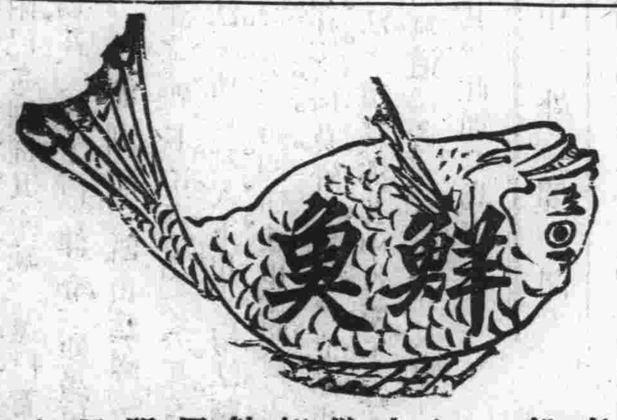
遼陽小西門內 鹽川商會（電話一三六番）

建築用材 外に

電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本餘

北海道產松大角（自廿五尺至三十尺）二万立方尺餘

右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也



幣店儀雜貨專業之處今般業務擴張の上日本は勿論滿洲に支店を設け併て鮮魚の御小賣充分勉强の上御用達可申候間倍舊の御用命被仰付度奉願上候 敬具

營口南永世街百廿七號 森屋洋行

大連大山通り二丁目 仝支店

代理店 遼陽西門外 林洋行

代理店 奉天小西門外（電話十七番） 米田洋行

軍票騰貴致候に付弊行正札價格より五歩引を以て御用達可申候!!

銘酒 菊正宗 新着

尚最上日本白米及マッチ新荷着仕候

雜貨商 加藤洋行（營口電話八十番）

本店 天津日租界 支店 營口 北京 大阪 出張所 遼陽

飯塚工程局材料部

營口元神廟前（電話百三十五番）

弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候

一北海道產松大角材外種々

一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等

一日本石炭數種

雜貨 醬油 味噌 清酒

營口西北街 阪神組

御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓

○上等日本米 一石に付 銀二十圓

○板材木 ○木灰

○亞鉛板 ○洋釘

○干塩魚 ○石炭

喜久洋行 永世街八十號（電話百五十二番）

大連 東洋ホテル

大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町